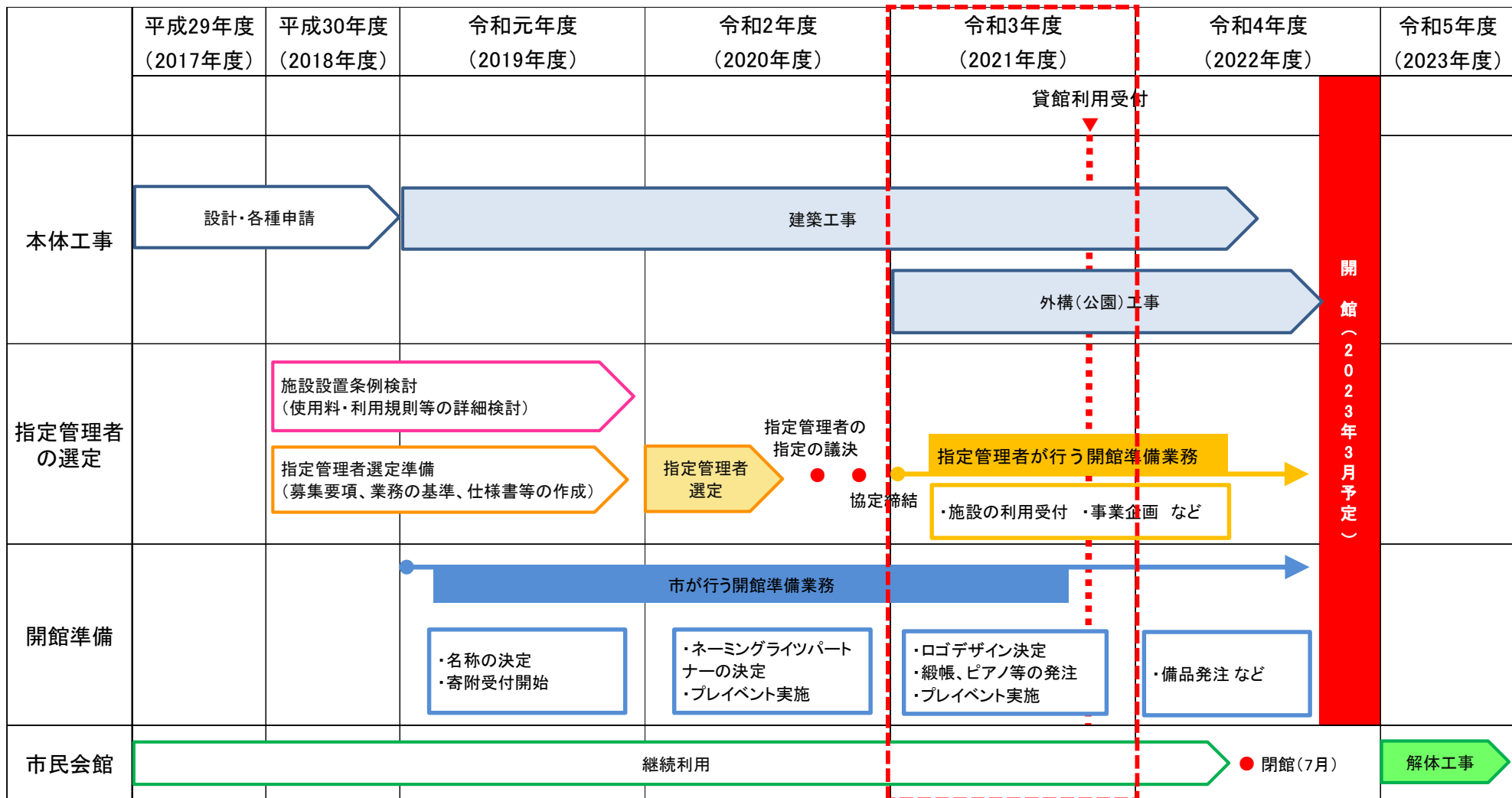


「高槻城公園 芸術文化劇場」 整備の取組について



令和3年8月

1 スケジュール



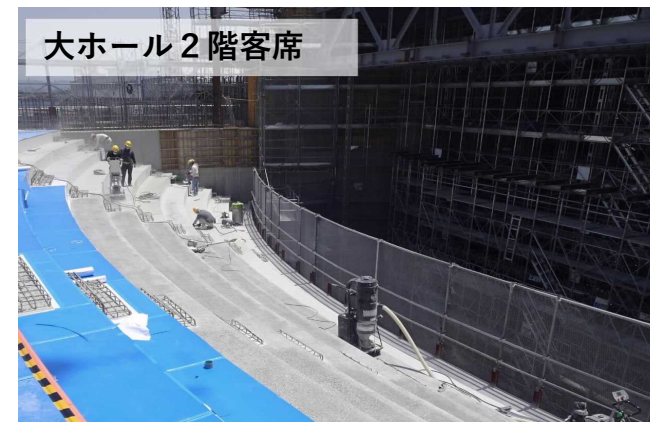
2 工事の進捗状況

- ・ 令和元年（2019年）11月に新築工事に着工
- ・ 2021年には躯体工事を終え、内装工事に着手予定

工事現場全体（市民会館屋上から撮影）



大ホール2階客席



創造交流部門エリア



3 名称の変更

劇場の位置する「城跡公園」を「高槻城公園」に名称変更したことに伴い、劇場の名称を変更。

令和元年(2019年)10月に決定した名称

高槻城跡公園 芸術文化劇場

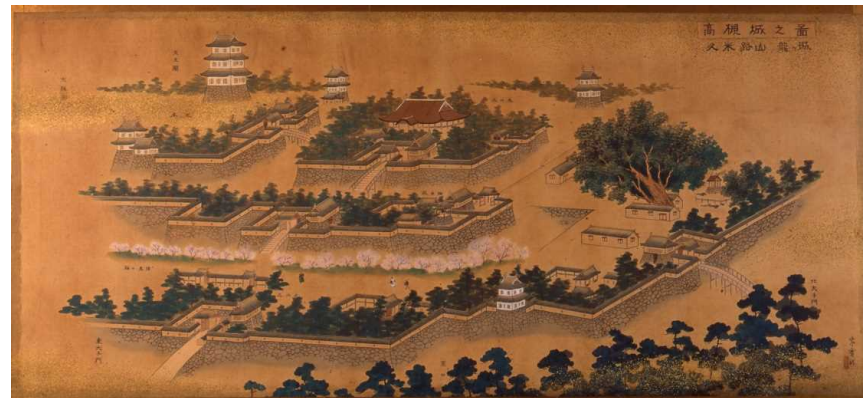
令和3年(2021年)4月に変更した新名称

高槻城公園 芸術文化劇場

<公園名称の変更理由>

劇場の位置する「城跡公園」は、本市が今後取り組む城下町再生の取組の核として位置付けた上で整備を進めることとしています。

かつて府内の三大城下町として栄えた歴史を含め、その存在を市内外の人に認識していただき、本市の新たなシンボルエリア創出に向けて取り組む方針を明確にするため、公園名を変更しました。



4 指定管理者の選定

●令和2年(2020年)12月指定管理者として(公財)高槻市文化振興事業団を選定

●選定(指定)理由

芸術文化劇場等は、文化振興ビジョンにおいて拠点文化施設として位置付けており、市の文化行政と密接に連携しながら、市民文化の振興を図っていく必要があることから、選定方法を特定(非公募)とし、引き続き高槻市文化振興事業団を選定した。

●主な提案内容

- ・劇場運営及びアートマネジメントに係る専門家をプロデューサーとして招聘し、事業企画や施設提供体制を強化
- ・施設の貸館体制を強化し、ホームページのリニューアルや決済手段の充実などにより利用者サービスの向上を図る
- ・芸術文化劇場では、従来の継続的な取組に加え、施設機能も活かした新たなジャンルの事業を企画
- ・オープニング事業は、質の高い鑑賞事業、高槻出身アーティストの起用、市民参加型事業など施設機能を最大限に活かして展開

●指定管理期間

令和3年(2021年)4月から令和8年(2026年)3月までの5年間

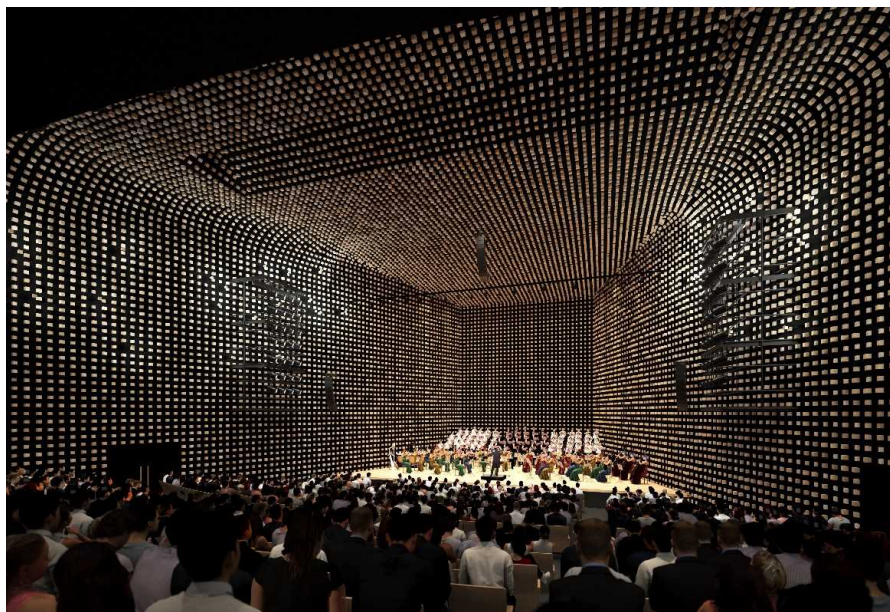
※高槻現代劇場ほか文化施設を管理しながら、令和5年(2023年)3月の新劇場オープン準備を行う

5 ネーミングライツパートナーを決定

令和2年(2020年)11月にネーミングライツパートナーを募集し、下記のとおり決定

①大ホール

愛称「トリシマホール」
(株式会社西島製作所)



契約期間：10年間
総額4,000万円
※綴帳への企業名掲載1,000万円含む

②小ホール

愛称「太陽ファルマテックホール」
(太陽ファルマテック株式会社)



契約期間：10年間
総額1,000万円

6 ロゴデザインを決定



高槻城公園芸術文化劇場

Takatsuki Arts Theatre

●令和3年6月にクラウドソーシングを活用し、ロゴデザインの募集をしたところ、113点の応募

●市で優れた作品5点に絞り、令和3年(2021年)6~7月にインターネットや市民会館、市役所での投票ブースにて一般投票し、採用作品を決定

●今後、印刷物やホームページ、建物案内サインなどで活用

■デザインコンセプト

本劇場のコンセプトである、「ひと・まち・未来が輝く文化芸術の創造・発信拠点」をテーマ。お城のイメージ、緞帳（舞台の幕）、建物の特徴である縦格子（ルーバー）をモチーフに、歴史的な跡地で、さまざまな人たちに利用していただく、開かれた発信拠点を末広に繁栄するイメージで表現

7 寄付金の受入状況

総額 **26,375,300円** (令和3年(2021年)7月7日時点)

区分	令和元年(2019年)度		令和2年(2020年)度		令和3年(2021年)度		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
個人	58	7,670,000	43	3,995,300	16	1,870,000	117	13,535,300
団体	9	490,000	7	4,050,000	0	0	16	4,540,000
企業	8	5,000,000	7	3,200,000	1	100,000	16	8,300,000
合計	75	13,160,000	57	11,245,300	17	1,970,000	149	26,375,300

うち企業版ふるさと納税

令和元年(2019年)度	令和2年(2020年)度	令和3年(2021年)度	計
2,200,000	0	100,000	2,300,000

高槻市の文化芸術を応援しよう

新文化施設整備事業への寄附のお願い

個人様・団体様用

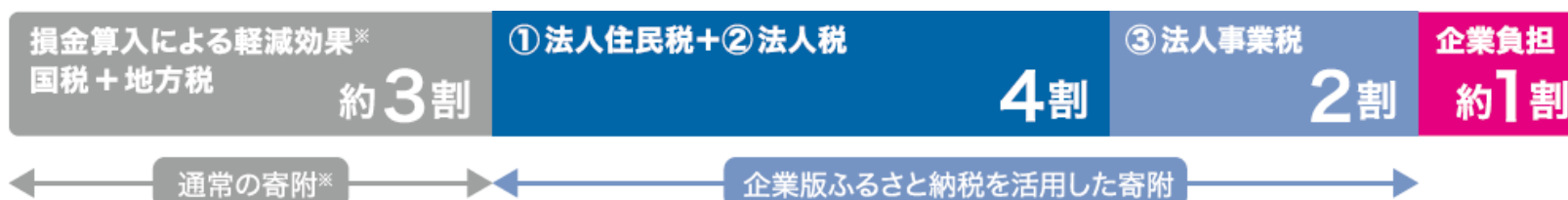
昭和39年の開館以来、コンサート、発表会、結婚式や成人式など、皆様のたくさんの思い出が詰まった市民会館は、令和4年度、精華公園に新文化施設として生まれ変わります。これまでの記憶を引き継ぎながら、高槻市の新たなシンボルとして、さらに多くの思い出を遺す場所となるよう新文化施設への応援をお願いいたします。皆様からいただいた寄附金は、新文化施設の警備やコンサート等の文化事業に活用させていただきます。



8-1 企業版ふるさと納税について

1. 制度の概要

- ・企業が寄付を通じて、自治体の地域再生計画に掲げられた地方創生プロジェクトへの取組を応援した場合に、税制上の優遇措置を受けることができる制度です。
- ・当事業では、内閣府から「地域再生計画」の認定を受け、企業版ふるさと納税の適用を受けています。



※企業が地方公共団体に寄附した場合は、その全額が損金算入されるため、寄附額の約3割(法人実効税率)相当額の税の軽減効果があります。

2. これまでの経過について

平成31年3月29日	地域再生計画「文化芸術振興による交流促進」の認定
令和元年6月	寄付金の受付開始
令和2年8月31日	高槻市文化振興審議会 令和元年度の進捗状況の報告・評価
令和3年8月	高槻市文化振興審議会 令和2年度の進捗状況の報告・評価

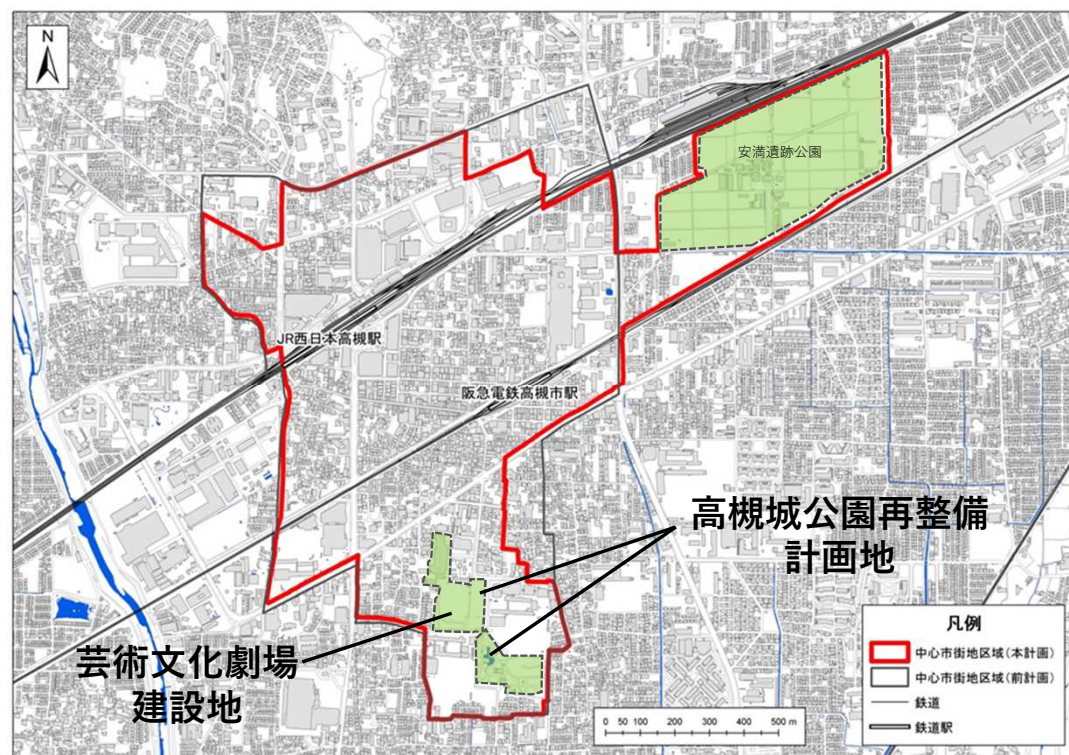
8-2 「地域再生計画」の概要

計画名称「文化芸術振興による交流促進」

計画期間	平成31年(2019年)度 ～令和4年(2022年)度
事業の内容	芸術文化劇場及び高槻城公園の整備を行うことで、阪急南側の集客力の強化を図り、中心市街地の交流人口の増加を目標とする。
評価指標	①歴史文化施設の年間来館者数(※) ②エリア内の歩行者・自転車通行量 ※市民会館又は芸術文化劇場のホール、しろあと歴史館の来館者数
事業の評価方法	毎年度8月頃の文化振興審議会において進捗状況の評価を行い、ホームページで公開。

計画区域

市の中心市街地活性化基本計画で定めるエリア（安満遺跡公園、高槻城公園を含む、JR高槻駅・阪急高槻市駅周辺のエリア）



8-3 評価指標の達成状況

評価指標 (KPI)	①歴史・文化施設の年間利用者数	②中心市街地の歩行者・自転車通行量	基準年月
当初	161,601人/年	72,970人/日	①平成28年(2016年)3月 ②平成30年(2018年)3月
令和元年(2019年)度実績	139,320人/年	80,315人/日	令和2年(2020年)3月
令和2年(2020年)度実績	32,696人/年	73,097人/日	令和3年(2021年)3月
令和3年(2021年)度実績			
令和4年(2022年)度実績			
令和4年(2022年)度目標値	197,000人	77,300人/日	令和5年(2023年)3月

※文化振興審議会に諮った上で、上記の表を毎年度ホームページで公表します。

市の中心市街地活性化基本計画における評価を踏まえた本計画での各指標の評価は以下のとおり。

<評価指標①>

歴史・文化施設の年間利用者数

令和2年度の実績は32,696人/年となり、目標値を大幅に下回る結果になった。これは、緊急事態宣言による、しろあと歴史館の一時閉館や、市民会館大ホールの一時的閉館及び入場制限の影響によるものと考えられる。

<評価指標②>

歩行者・自転車通行量

令和2年度の調査では、目標値は下回ったものの、基準値を上回る73,097人/日（平日・休日の平均）という結果になった。新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛の影響等が大きい中、昨年度から微減に留まった理由としては、中心市街地活性化協議会を始めとした関係者による活性化気運の醸成が図られていること、オープン高槻などの活性化事業によるものと考えられる。